

中学校 第2学年 社会科(歴史) 学習指導案

北海道釧路市立幣舞中学校
教諭 齋藤 政人

単元名 第5章4節 激動する東アジアと日清・日露戦争(5時間)

単元のねらい

- 条約改正の歩みや日清・日露戦争について捉え、日本の国際的地位が向上したことを、大陸との関係と合わせて理解する。
- 日清・日露戦争を通じて、日本をとりまく国際関係が変化したことについて考える。

本時のねらい

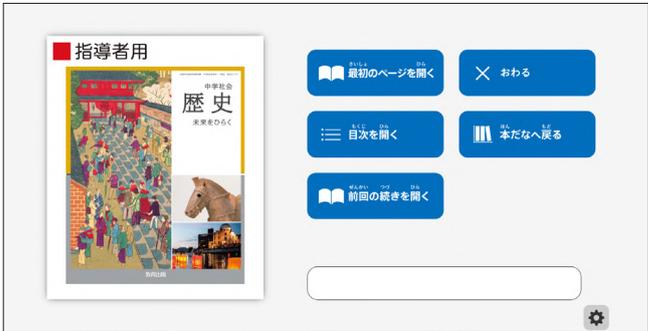
- 韓国や満州をめぐるロシアとの勢力争いから日露戦争が起こったことを理解するとともに、主戦論が強まる中で非戦論が唱えられた理由について考える。
- 戦争の推移や講和について捉え、戦争が国民生活に多大な犠牲を強いた一方で、その勝利がアジア諸国などに大きな影響を与えたことを理解する。(第4時)

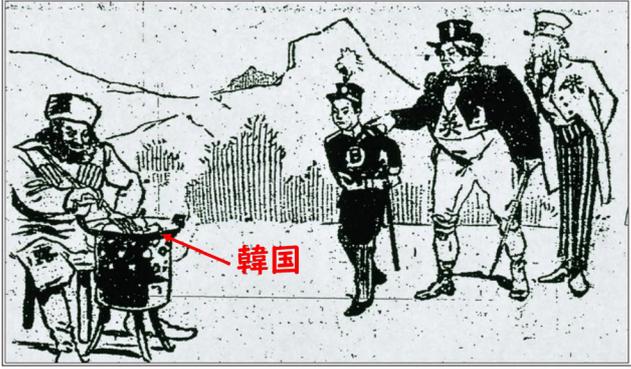
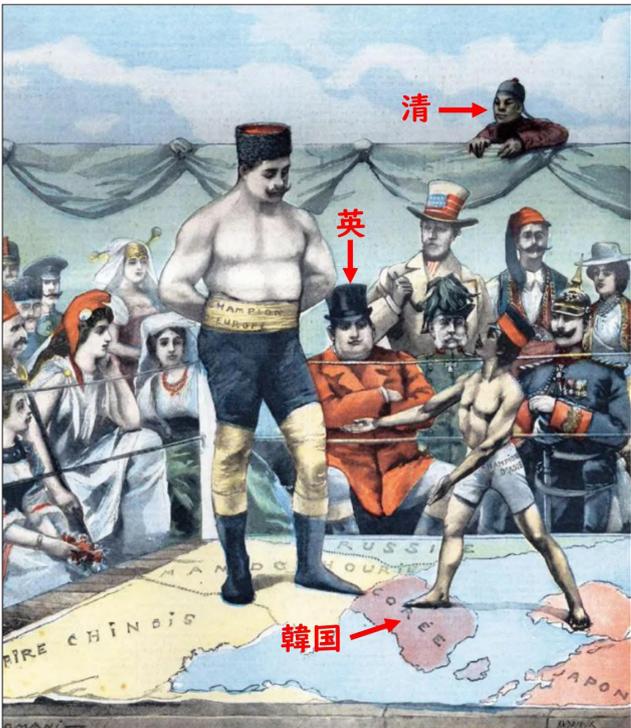
指導時期 11月下旬～12月上旬

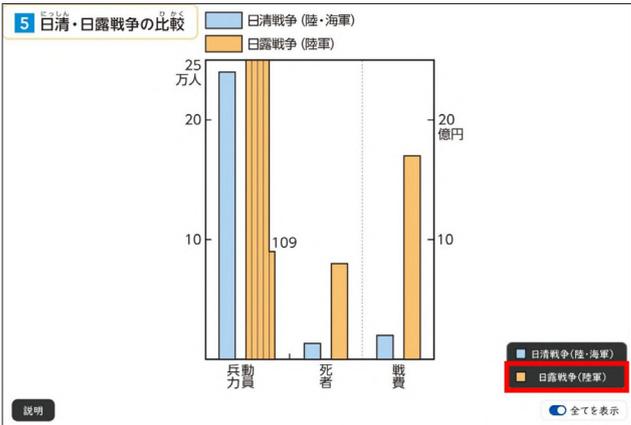
指導者用デジタル教科書(教材)活用の意図・目的

本単元では列強諸国がアジアへ接近したことをきっかけに、日本を取り巻く国際関係が大きく変化する時代を取り扱う。「風刺画」が最も多く掲載されている単元であり、風刺画は当時の国際関係を考える教材として非常に優れている。また風刺画は、書かれている文字や人物の表情からも情報を読み取ることができる。しかし、生徒の発言を全体で共有する際に、黒板に風刺画の掲示物を貼り付けると、どうしても大きなスペースが必要になってくる。その点、デジタル教科書(教材)であれば、ディスプレイに風刺画を表示しながら細部を詳しく見たい場面では、拡大表示が簡単に行える。さらに、文字や矢印を直接書き込みながら生徒の発言をまとめることもできる。「情報の共有」と「可視化」が、非常に簡単な操作で行うことができるのはデジタル教科書(教材)のメリットといえる。

本時(第4時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 「指導者用デジタル教科書(教材)」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 ● 前時の振り返りを行う。 T: p.189資料6「日英同盟の風刺画」はどのような状況を表しているのか、隣の人と確認しよう。 	 <ul style="list-style-type: none"> ● p.189資料6「日英同盟の風刺画」を紙面を、ピンチアウトして表示する

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ◎：体の小さい日本がイギリスの指示でロシアを襲おうとしている。 ◎：体の大きいロシアは韓国を突こうとしている。 ◎：アメリカはイギリスの後ろで様子を見ている。 ●数名の生徒に考えを発言させる。 	
展開	<div data-bbox="242 607 1465 719" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>本時の課題 日露戦争は国内や国際社会にどのような影響を与えたのか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● p.190 資料1 「日本とロシアの関係を描いた風刺画」を3～4人のグループで読み取る。 T：p.190 資料1 「日本とロシアの関係を描いた風刺画」はどのような状況を表しているのか、グループで話し合おう。 ◎：日本はリングの上で韓国に足を置いている。ロシアと戦いの寸前だ。 ◎：列強諸国は状況を見守っている。イギリスは戦わない。 ◎：清（中国）は遠くから見ているだけだ。 ● 補足発問 <ul style="list-style-type: none"> T：日本とロシアに台詞をつけるとするなら何と書いていそうかな。 ◎：日本：そこをどけてくれませんか。 ロシア：（無言の圧力）。 ● ロシアと戦争をすることに国内ではどのような反応があったのか、対立する意見を比較する。 <ul style="list-style-type: none"> ◎：なぜ開戦の世論の方が強かったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p.190 資料1 「日本とロシアの関係を描いた風刺画」を、紙面をピンチアウトして表示する。  <ul style="list-style-type: none"> ● p.190 資料2 「戦争前の日本国内の世論」を拡大表示する。 <div data-bbox="853 1646 1484 2072" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 戦争前の日本国内の世論</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 主戦論～東京帝国大学などの7人の博士 ロシアが朝鮮で問題を起こそうとしているのは、満州はすでにロシアの勢力内であるとみなしているからだ。もし朝鮮で争い、一歩でもゆずれば、一挙に朝鮮も満州も失うことになるだろう。……日本は、この好機を逃せば、国の存立を危うくしてしまうことを自覚するべきである。 <small>〔東京朝日新聞〕1903年6月24日 一部の要約</small> ● 非戦論～内村鑑三 私は、日露の非開戦論者であるばかりでなく、戦争の絶対的な反対論者である。……日清戦争で2億の富と1万の生命を費やし、日本が得たものは何か。その目的だった朝鮮の独立はかえって弱められ、中国の分割が始まり、日本国民の負担は非常に増え、東洋全体を危機におちいらせたではないか。 <small>〔万朝報〕1903年6月30日 一部の要約</small> <p style="text-align: center;"><small>説明</small></p> </div>

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用												
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● p.190 本文「戦争と国民生活」、p.191 資料4、資料5を見ながら、両国ともに戦争継続が難しい状況を理解する。 ● p.191 本文「戦争の調和と国内外への影響」からポーツマス条約の内容をまとめる。 T：下関条約との最も大きな違いは？ C：賠償金がもらえなかったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p.191 資料5「戦争前の日本国内の世論」の「操作」コンテンツを開き、右下の「日露戦争（陸軍）」のボタンを何度か押し、点滅表示して強調する。  <table border="1"> <caption>5 日清・日露戦争の比較</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>日清戦争（陸・海軍）</th> <th>日露戦争（陸軍）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>兵動員員</td> <td>25万人</td> <td>109万人</td> </tr> <tr> <td>死者</td> <td>約2万人</td> <td>約8万人</td> </tr> <tr> <td>戦費</td> <td>約10億円</td> <td>約18億円</td> </tr> </tbody> </table>	項目	日清戦争（陸・海軍）	日露戦争（陸軍）	兵動員員	25万人	109万人	死者	約2万人	約8万人	戦費	約10億円	約18億円
項目	日清戦争（陸・海軍）	日露戦争（陸軍）												
兵動員員	25万人	109万人												
死者	約2万人	約8万人												
戦費	約10億円	約18億円												
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 日露戦争は国内や国際社会にどのような影響を与えたのかまとめる。 T：教科書の本文とp.191 資料7を参考にしながら、本時の課題について文章でまとめよう。 ● 次時の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● p.191 資料7「増税に泣く国民」を、紙面をピンチアウトして表示する。 												

指導者用デジタル教科書（教材）を活用したことで得られた効果

本時の展開では多くの資料を提示することになるが、風刺画やグラフ、地図などを黒板に貼るとスペースが足りず、資料を丁寧に読み取ることができなくなる。デジタル教科書は資料をすばやく提示できるだけでなく、情報の書き込み、書き直しをスムーズに短時間で行うことができる。これは生徒の活動時間の確保にもつながり、さらには、複数のクラスで授業を行うときの教材準備にかかる時間を短縮することにもなる。

風刺画を丁寧に読み取る時に、資料をタップして拡大資料を提示することもできるが、教師が操作するタブレット上ですばやくピンチアウトさせたいときは、通常の教科書画面の方が操作しやすい。特に拡大の必要がないグラフ、地図などでは拡大資料を活用するなど、資料によって使い分けができる。

動画資料もコンパクトに要点がまとめられているものが多く、前時の振り返りや、資料の読み取りのために時間を確保したい時には、積極的に活用したい。